

令和2年度第1回酒田市地域公共交通会議

日時 令和2年9月4日（金）13：30

場所 酒田市役所7階 703会議室

次 第

1 開 会

2 会長挨拶

3 協議事項

[議案第1号] 自家用有償旅客運送に係る更新期限更新手続きの承認について

[議案第2号] 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）

4 報告事項

(1) 令和元年度酒田市地域公共交通運行状況について

(2) 日常生活での公共交通の利用に関する市民アンケート調査について（速報）

(3) 酒田市における公共交通の改編について

5 その他

6 閉 会

令和2年度第1回酒田市地域公共交通会議出席者名簿

[出席者]

(敬称略)

役職	所属・職名	氏名	備考
会長	酒田市副市長	矢口 明子	
副会長	庄内交通株式会社代表取締役社長	村 紀明	
	庄内交通株式会社専務取締役	本山 経一	
	一般社団法人山形県バス協会専務理事	小関 和夫	代理出席
	一般社団法人山形県ハイヤー協会酒田支部支部長	山崎 正人	
	酒田市自治会連合会会長	阿部 建治	
	酒田市地区自治会連合会会長	佐藤 俊次	
	八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	長谷川 裕	
	松山地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	後藤 吉史	
	平田地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤 力	
監事	特定非営利活動法人酒田市障がい者福祉会理事長	佐藤 健治	
	国土交通省東北運輸局山形運輸支局 首席運輸企画専門官	関澤 真	
	私鉄庄内交通労働組合書記次長	屋代 高志	
	山形県庄内総合支庁総務企画部 総務課連携支援室長	齋藤 真朗	
副会長	東北公益文科大学学長	神田 直弥	
	酒田市健康福祉部福祉課長	柿崎 宏一	

[欠席者]

役職	所属・役職名	氏名	備考
監事	酒田市老人クラブ連合会会長	梨本 利雄	
	酒田警察署長	大貫 和也	
	山形県庄内総合支庁建設部道路計画課長	田村 武寿	
	酒田市建設部長	藤井 昌道	
	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所道路管理課課長	米塚 善昭	

[事務局]

酒田市	企画部長	宮崎 和幸
	都市デザイン課長	高橋 紀幸
	都市デザイン課長補佐	五十嵐 國敬
	都市デザイン課地域公共交通係長	成澤 直樹
	都市デザイン課地域公共交通係主任	齋藤 武有

令和2年度第1回酒田市地域公共交通会議 座席図

日時：令和2年9月4日（金）13:30

場所：酒田市役所7階 703会議室

[副会長] 東北公益文科大学学長 神田 直弥	[会長] 酒田市副市長 矢口 明子	[副会長] 庄内交通株式会社 代表取締役社長 村 紀明
------------------------------	-------------------------	--------------------------------------

酒田市自治会連合会 会長 阿部 建治	庄内交通株式会社 専務取締役 本山 経一
酒田市地区自治会連合会 会長 佐藤 俊次	一般社団法人 山形県バス協会専務理事 小関 和夫
八幡地域コミュニティ 振興会連絡協議会会長 長谷川 裕	一般社団法人山形県ハイヤー 協会酒田支部支部長 山崎 正人
松山地域コミュニティ 振興会連絡協議会会長 後藤 吉史	国土交通省東北運輸局山形 運輸支局首席運輸企画専門官 関澤 真
平田地域コミュニティ 振興会連絡協議会会長 佐藤 力	庄内総合支庁総務企画部 総務課連携支援室室長 齋藤 真朗
特定非営利活動法人 酒田市障がい者福祉会理事長 佐藤 健治	私鉄庄内交通 労働組合書記次長 屋代 高志
酒田市健康福祉部福祉課 課長 柿崎 宏一	

事務局		
企画部長 宮崎 和幸	都市デザイン課長 高橋 紀幸	都市デザイン課課長補佐 五十嵐 國敬
地域公共交通係長 成澤 直樹	地域公共交通係主任 齋藤 武有	

協議事項

[議案第1号]

自家用有償旅客運送に係る更新期限更新手続きの承認について

(1) 登録の期間 令和2年10月1日 から 令和5年9月30日 まで 3年間

(2) 自家用有償旅客運送の種別 市町村運営有償運送（交通空白輸送）

(3) 路線

① るんるんバス路線（7路線） 運行委託先：庄内交通株式会社

No.	路線名	起点	終点	主たる経過地	キロ程
1	市内循環A線 (毎日運行)	酒田市中町2丁目5 (マリン5清水屋西・中町西)	酒田市中町2丁目5 (マリン5清水屋西・中町西)	中町、 日本海総合病院、 酒田リハビリ病院	20.6
2	市内循環B線 (毎日運行)	酒田市中町2丁目5 (マリン5清水屋東・中町)	酒田市中町2丁目5 (マリン5清水屋東・中町)	中町西、 日本海総合病院、 酒田リハビリ病院	20.5
3	市内循環C線 (隔日運行)	酒田市幸町2丁目11番2号 (庄交バスターミナル)	酒田市幸町2丁目11番2号 (庄交バスターミナル)	中町、 酒田リハビリ病院、 日本海総合病院	20.7
4	市内循環D線 (隔日運行)	酒田市幸町2丁目11番2号 (庄交バスターミナル)	酒田市幸町2丁目11番2号 (庄交バスターミナル)	日本海総合病院、 酒田リハビリ病院、 中町	19.2
5	酒田駅大学線 (毎日運行)	酒田市幸町2丁目1 (酒田駅前)	酒田市飯森山3丁目17 (出羽遊心館・美術館)	中町、 高見台、 東北公益文科大学前	9.7
6	古湊アイアイひらた線 (隔日運行)	酒田市古湊1番地内 (古湊)	酒田市山楯字南山32番地の4 (悠々の杜温泉施設前)	栄町、 中町、 砂越駅前	28.0
7	酒田駅飯森山線 (隔日運行)	酒田市幸町2丁目1 (酒田駅前)	酒田市飯森山3丁目17 (出羽遊心館・美術館)	中町、 日本海総合病院、 高見台	24.4

② ぐるっとバス路線（4路線） 運行委託先：鳥海やわた観光株式会社

No.	路線名	起点	終点	主たる経過地	キロ程
1	一條循環線 (毎日運行)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	八幡総合支所前、 日本海八幡クリニック	9.2
2	観音寺循環線 (毎日運行)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	八幡総合支所前、 日本海八幡クリニック	11.0
3	升田やまゆり荘線 (毎日運行)	酒田市升田字野向20 (升田簡易郵便局脇)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	八幡総合支所前、 日向コミセン	13.1
4	青沢やまゆり荘線 (毎日運行)	酒田市北青沢字家ノ前280 (青沢克雪管理センター前)	酒田市区条字八森920番地の2 (老人福祉センターやまゆり荘前)	八幡総合支所前、 大蔵	14.1

(4) 運賃

大人	200 円
小学生・中学生・高校生	100 円
障がい者 (身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方)	
障害者の付添人 (身体障害者手帳第 1 種、療育手帳 A 又は精神障害者保健福祉手帳 1 級を お持ちの方の付添人 1 人)	
運転経歴証明書をお持ちの方 (運転免許自主返納者等)	
就学前児童	無料

- ・ 上記ほか市長が特に認めるものについて減免可
- ・ 回数券は 10 枚綴りを 1,500 円で販売

(5) 使用車両 市所有車両 10 台〔内訳：るんるん 7 台、ぐるっと 3 台〕

協議事項

[議案第2号]

生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）（案）

令和2年 7月21日
(名称) 酒田市地域公共交通会議
会長 矢口 明子

1. 生活交通改善事業計画の名称
タクシー事業者福祉車両導入促進計画
2. バリアフリー化設備等整備事業の目的・必要性
身体障害者や高齢者、妊産婦などの一般タクシーでは移動が難しい方が、安心して公共交通を利用できる環境を整備することは、地域生活を営む上で欠かせないことである。 そうした中、ドア・ツー・ドアの公共交通機関であるタクシーのバリアを解消していくことは、移動困難者の外出を支える取組として重要である。 地域における福祉タクシーへの需要も増えており、それらに対応するためにもタクシー事業者が積極的に福祉タクシー車両を導入する必要がある。
3. バリアフリー化設備等整備事業の定量的な目標及び効果
(1) 事業の目標
酒田市内のタクシー車両数は135台であるが、そのうち、福祉タクシー車両は31台であるため、福祉タクシー車両の比率は23.0%である。 令和4年度までに、市内福祉タクシー車両運行台数を34台以上とすることを目標とする。
(2) 事業の効果
リフト、スロープ又は回転シート付き福祉タクシー車両（UDタクシーを含む）を導入することにより、車いすやストレッチャー利用者の移動の円滑化が図られるとともに、公共交通利用者の増加に寄与する。
4. バリアフリー化設備等整備事業の内容と当該事業を実施する事業者
(1) 事業の内容：実施事業者（補助対象事業者）
(内容) ※具体的に記載すること。 UDタクシー車両の導入 3台：酒田第一タクシー株式会社
(実施事業者（補助対象事業者）の身体・知的・精神の3区分における運賃割引率について) 酒田第一タクシー株式会社 身体：普通旅客運賃 1割、知的：普通旅客運賃 1割、精神：普通旅客運賃 設定なし
(2) 関連事項（以下、〈 〉内の事業に該当する場合に記載）

〈福祉タクシー車両・共同配車センターに係る事業〉

特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（平成 21 年法律第 64 号）第 11 条に定める特定地域における特定事業計画の提出状況。

指定地域に該当しない。

5. バリアフリー化設備等整備事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

令和 2 年度（当該年度）

事業の名称	総事業費 割合	国費 割合	都道府県負担 割合	市区町村負担 割合	事業者負担 割合
UDタクシー 車両の導入	9,100 千円	1,800 千円	千円	千円	7,300 千円
	100%	19.8%	%	%	80.2%

令和 3 年度（翌年度）

事業の名称	総事業費 割合	国費 割合	都道府県負担 割合	市区町村負担 割合	事業者負担 割合
UDタクシー 車両の導入	千円	千円	千円	千円	千円
	%	%	%	%	%

※総事業費については見込み額を記載

※列記の者以外に費用負担者がいる場合は、適宜修正の上、全体構成が分かるように記載。

6. 計画期間

以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（——）で記載。

●で年度ごとの事業着手日、事業完了日を記載

事業の名称	令和元年度				令和 2 年度				令和 3 年度			
	4 月	9 月	12 月	3 月	4 月	9 月	12 月	3 月	4 月	9 月	12 月	3 月
UDタクシー車両 の導入												
					UDタクシー 3 台 交付決定後着手							
					●————●							
					3 月 31 日完了							

7. 協議会の開催状況と主な議論

・事業内容については、本年度中に開催（令和 2 年 9 月頃開催予定）する、本市地域公共交通会議において、計画の概要について説明し、協議のうえ合意を図ることとしている。

8. 利用者等の意見の反映

※意見を募集した方法、主な意見の内容、意見への対応について記載。

特になし。

9. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	※別紙「酒田市地域公共交通会議委員名簿」のとおり
関係市区町村	
交通事業者・交通施設管理者等	
地方運輸局	
その他協議会が必要と認める者	

■注意事項

・総合連携計画等の既存の計画を活用する場合は、上記の事項について記載のある計画をそのまま活用することでもよい。ただし、記載されていない事項については追記すること。

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 酒田市本町二丁目2番45号
(所 属) 酒田市企画部都市デザイン課
(氏 名) 阿部 吉成
(電 話) 0234-26-5756
(e-mail) kotu@city.sakata.lg.jp

報告事項

(1) 令和元年度酒田市地域公共交通運行状況

① 乗合バス事業

		H28	H29	H30	R1	増減 (R1-H30)
る ん ん バ ス	市内循環A線(右回り線)	41,812人	43,167人	43,612人	43,551人	-61人
	市内循環B線(左回り線)	43,786人	46,862人	47,165人	45,526人	-1,639人
	市内循環CD線	-	-	-	3,216人	3,216人
	酒田駅大学線	52,190人	56,464人	60,651人	59,555人	-1,096人
	古湊アイアイひらた線	10,628人	11,165人	12,314人	11,832人	-482人
	酒田駅かんぼ線	10,767人	11,610人	12,169人	10,909人	-1,260人
	輸送人数計①	159,183人	169,268人	175,911人	174,589人	-1,322人
	運賃収入②	15,584千円	16,651千円	17,275千円	17,545千円	270千円
	県市町村総合交付金	6,098千円	6,656千円	6,669千円	6,150千円	-519千円
	広告等③	486千円	292千円	292千円	587千円	295千円
	収入計④	22,168千円	23,599千円	24,236千円	24,282千円	46千円
	運行経費⑤	57,864千円	60,718千円	65,461千円	64,886千円	-575千円
	収益率(②+③)÷⑤	27.7%	27.9%	26.8%	27.9%	1.1
乗車一人当たり経費(⑤÷①)	364円	359円	372円	372円	0円	
乗車一人当たり市負担額(⑤-④)÷①	224円	219円	234円	233円	-1円	
ぐ る つ と バ ス	升田やまゆり荘線	6,765人	5,210人	4,624人	3,982人	-642人
	青沢やまゆり荘線	3,213人	3,121人	3,121人	3,038人	-83人
	一條循環線	2,271人	2,458人	2,023人	1,455人	-568人
	観音寺循環線	1,951人	1,281人	1,064人	1,010人	-54人
	輸送人数計①	14,200人	12,070人	10,832人	9,485人	-1,347人
	運賃収入②	1,089千円	965千円	917千円	778千円	-139千円
	県市町村総合交付金	544千円	475千円	411千円	369千円	-42千円
	広告等③	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
	収入計④	1,633千円	1,440千円	1,328千円	1,147千円	-181千円
	運行経費⑤	20,049千円	21,724千円	21,604千円	22,851千円	1,247千円
収益率(②+③)÷⑤	5.4%	4.4%	4.2%	3.4%	-0.8	
乗車一人当たり経費(⑤÷①)	1,412円	1,800円	1,994円	2,409円	415円	
乗車一人当たり市負担額(⑤-④)÷①	1,297円	1,681円	1,872円	2,288円	416円	
平 田 る ん ん バ ス	砂越海ヶ沢線	-	-	3,288人	2,850人	-438人
	砂越小林線	-	-	3,616人	3,824人	208人
	輸送人数計①	-	-	6,904人	6,674人	-230人
	運賃収入②	-	-	688千円	652千円	-36千円
	県市町村総合交付金	-	-	261千円	261千円	0千円
	広告等③	-	-	0千円	0千円	0千円
	収入計④	-	-	949千円	913千円	-36千円
	運行経費⑤	-	-	23,829千円	24,383千円	554千円
	収益率(②+③)÷⑤	-	-	2.8%	2.6%	-0.2
	乗車一人当たり経費(⑤÷①)	-	-	3,451円	3,653円	202円
乗車一人当たり市負担額(⑤-④)÷①	-	-	3,314円	3,517円	203円	

		H28	H29	H30	R1	増減 (R1-H30)
合計	輸送人数計①	173,383人	181,338人	193,647人	190,748人	-2,899人
	運賃収入②	16,673千円	17,616千円	18,880千円	18,975千円	95千円
	県市町村総合交付金	6,642千円	7,131千円	7,341千円	6,780千円	-561千円
	広告等③	486千円	292千円	292千円	587千円	295千円
	収入計④	23,801千円	25,039千円	26,513千円	26,342千円	-171千円
	運行経費⑤	77,913千円	82,442千円	110,894千円	112,120千円	1,226千円
	収益率(②+③)÷⑤	22.0%	21.7%	17.2%	17.4%	0.2
	乗車一人当たり経費(⑤÷①)	449円	455円	573円	588円	15円
	乗車一人当たり市負担額(⑤-④)÷①	312円	317円	436円	450円	14円

② デマンドタクシー事業

		H28	H29	H30	R1	増減 (R1-H30)
輸 送 人 数	新堀	89人	84人	90人	71人	-19人
	広野	542人	512人	531人	442人	-89人
	中平田	378人	406人	451人	408人	-43人
	東平田	1,127人	921人	623人	621人	-2人
	北平田	622人	458人	499人	415人	-84人
	西荒瀬	1,184人	1,326人	1,226人	1,084人	-142人
	南遊佐	1,081人	1,111人	1,132人	935人	-197人
	本楯	323人	566人	538人	568人	30人
	上田	221人	226人	165人	109人	-56人
	松山[酒田駅線]	1,235人	1,384人	1,458人	1,337人	-121人
	松山[管内]	197人	238人	178人	140人	-38人
	計①	6,999人	7,232人	6,891人	6,130人	-761人
	収 入	運賃収入②	3,469千円	3,582千円	3,429千円	3,052千円
県市町村総合交付金		1,521千円	1,432千円	1,500千円	1,361千円	-139千円
計③		4,990千円	5,014千円	4,929千円	4,413千円	-516千円
運行経費④		21,774千円	22,304千円	21,596千円	21,490千円	-106千円
収益率 ②÷④		15.9%	16.0%	15.8%	14.2%	-1.6
乗車一人当たり経費(④÷①)		3,111円	3,084円	3,134円	3,506円	372円
乗車一人当たり市負担額(④-③)÷①		2,398円	2,391円	2,419円	2,786円	367円

●月・水・金曜日運行 → 新堀、東平田、北平田、南遊佐地区

火・木・金曜日運行 → 広野、中平田、西荒瀬、本楯、上田地区および松山地域

月曜日～金曜日運行 → 松山管内線（自宅⇄松山診療所・庄内みどり農協松山支店）

●料金 片道500円、松山総合支所管内線は片道300円（保護者同伴の3歳未満の幼児は無料）

③ 酒田市生活交通バス路線維持費補助事業

		H28	H29	H30	R1	増減 (R1-H30)
輸 送 人 数	十里塚-古湊線	30,632人	31,489人	29,730人	29,598人	-132人
	酒田市内循環線	22,614人	24,926人	25,007人	24,682人	-325人
	酒田-山寺線	25,337人	26,688人	26,235人	19,809人	-6,426人
	酒田-観音寺線	23,621人	26,673人	24,267人	23,766人	-501人
	酒田-余目線	25,987人	25,185人	23,076人	25,836人	2,760人
	酒田-湯野浜線	31,010人	32,037人	28,486人	30,703人	2,217人
	計	159,201人	166,998人	156,801人	154,394人	-2,407人
	海ヶ沢線	3,016人	2,617人	1,179人	-	-1,179人
	円能寺線	3,724人	3,530人	1,563人	-	-1,563人
	小林線	4,586人	4,317人	1,989人	-	-1,989人
	計	11,326人	10,464人	4,731人	-	-4,731人
	合計	170,527人	177,462人	161,532人	154,394人	-7,138人
	補 助 金	十里塚-古湊線	16,398千円	15,357千円	17,446千円	17,954千円
酒田市内循環線		15,934千円	14,151千円	15,219千円	15,715千円	496千円
酒田-山寺線		10,972千円	10,016千円	11,134千円	14,733千円	3,599千円
酒田-観音寺線		12,779千円	10,939千円	12,985千円	13,399千円	414千円
酒田-余目線		5,834千円	6,988千円	9,523千円	8,792千円	-731千円
酒田-湯野浜線		14,765千円	13,769千円	16,343千円	15,813千円	-530千円
計		76,682千円	71,220千円	82,650千円	86,406千円	3,756千円
海ヶ沢線		3,254千円	3,251千円	1,615千円	-	-1,615千円
円能寺線		2,847千円	2,845千円	1,413千円	-	-1,413千円
小林線		5,459千円	5,455千円	2,709千円	-	-2,709千円
計		11,560千円	11,551千円	5,737千円	-	-5,737千円
合計		88,242千円	82,771千円	88,387千円	86,406千円	-1,981千円
平田分低減運賃補助金		9,800千円	9,800千円	-	-	-

●平田地域分は廃止代替路線で、平成30年3月31日運行廃止。平成30年4月1日から酒田市が運行

●バス年度（前年10月1日から当該年9月30日）で補助金を交付

(2) 日常生活での公共交通の利用に関する市民アンケート調査について（速報）

1. アンケートの目的 平成 28 年度に策定した「地域公共交通網形成計画」の達成状況を把握し、今後の公共交通のあり方を検討する資料とする。
2. 調査対象及び発送数 市内の 18 歳から 89 歳で、小学校区を 11 グループに分け、各グループから 185 名ずつ合わせて 2,035 名に郵送。（前回は 2,200 名に郵送）
3. 調査期間 令和 2 年 6 月 2 日～6 月 19 日
4. 回収数 841 名分（回収率 41.3%）（前回は 833 名分（回収率 37.9%））
5. 回答内容について

（1）平成 28 年度に策定した「地域公共交通網形成計画」の目標指標の達成状況について

指標名	当時 (平成 27 年)	目標値 (令和 2 年)	結果 (アンケート)	達成状況
公共交通利用率 (市全体)	8.8%	8.8%	13.8%	達成 (5.0 ポイント改善)
公共交通利用率 (旧町)	6.1%	8.8%	8.3%	未達成 (改善したが、目標を 0.5 ポイント下回る)
接続性に関する 不満度	50.0%	40.0%	34.2%	達成 (15.8 ポイント改善)
情報提供に関する 不満度	37.9%	30.0%	19.7%	達成 (18.2 ポイント改善) H27 バスマップ配布、H30～バスロケーションシステム 運用開始が理由と思われる。
通勤・通学時の 公共交通利用率 (乗合バス、ハイヤー・ タクシーのみ)	※平成 22 年度 国勢調査より 0.8%	1.4%	1.6%	達成 (0.8 ポイント改善)

（2）その他

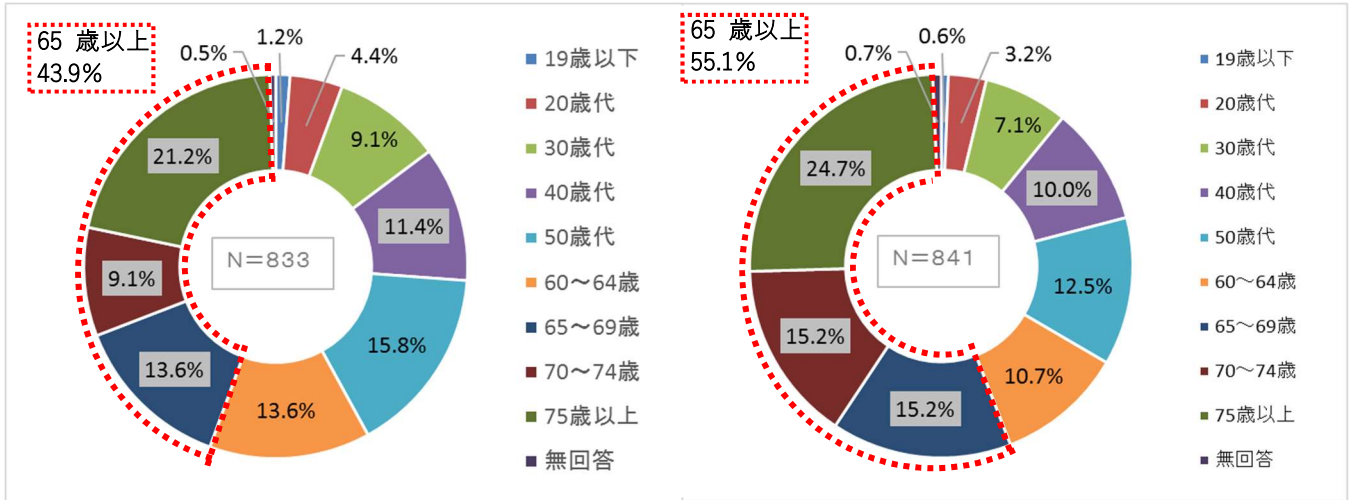
- ・公共交通を引き続き運行させるうえで、あなたの考えに近いもので、1 番多いのは「ルート変更や運行内容についての周知の徹底等、利用者増に力を入れるべきと思う」が 38.4%。
- ・市営の公共交通に関する情報の入手先についての回答は、時刻表冊子、バス停の時刻表、スマートフォン等から入手の 3 つで 73.2%、スマートフォン等から入手するとの回答を年齢別に分類すると、60 歳以上が 20.2%。
- ・デマンドタクシー導入地区の方で、デマンドタクシーの利用方法を知らない等の回答が約 80%。
- ・市営バスの片道料金について
安いと思う金額の平均 246 円、高い 429 円、高すぎる 578 円。
- ・デマンドタクシー導入地区の方でデマンドタクシーの片道料金について
安いと思う金額の平均 515 円、高い 861 円、高すぎる 1,074 円。

※グラフの%表示は、端数処理の関係で合計が100%にならないものもあります。

回答者の年齢

65歳以上が11.2ポイント増えて、64歳以下がほぼ同数減った。

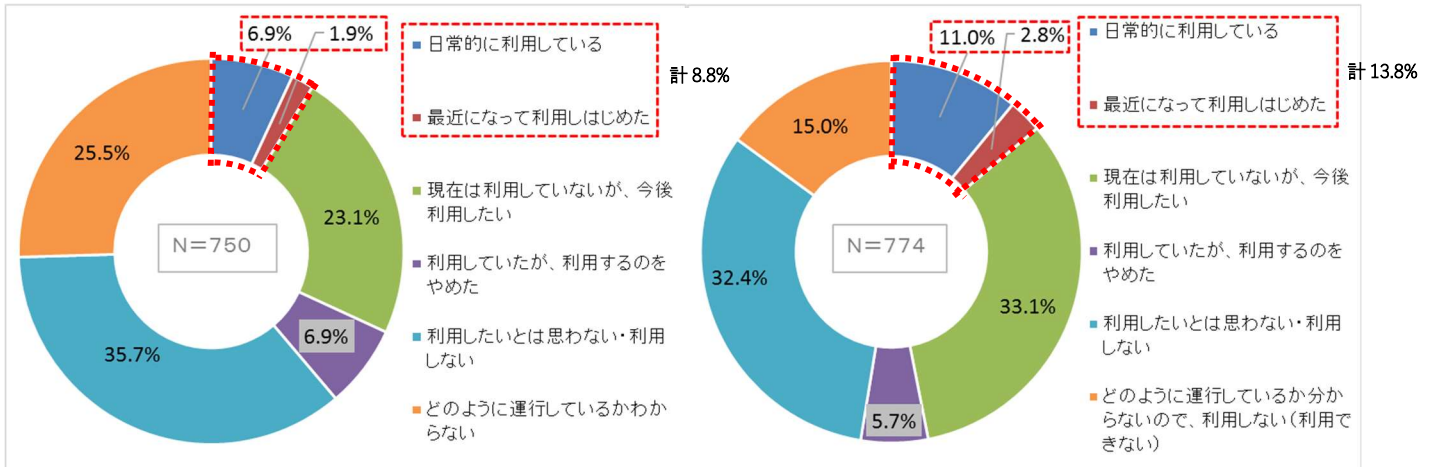
(65歳以上の対象件数も5.0ポイント増だが、回答数が実質6.2ポイント増で、関心が高いと思われる。)



公共交通利用率 (市全体)

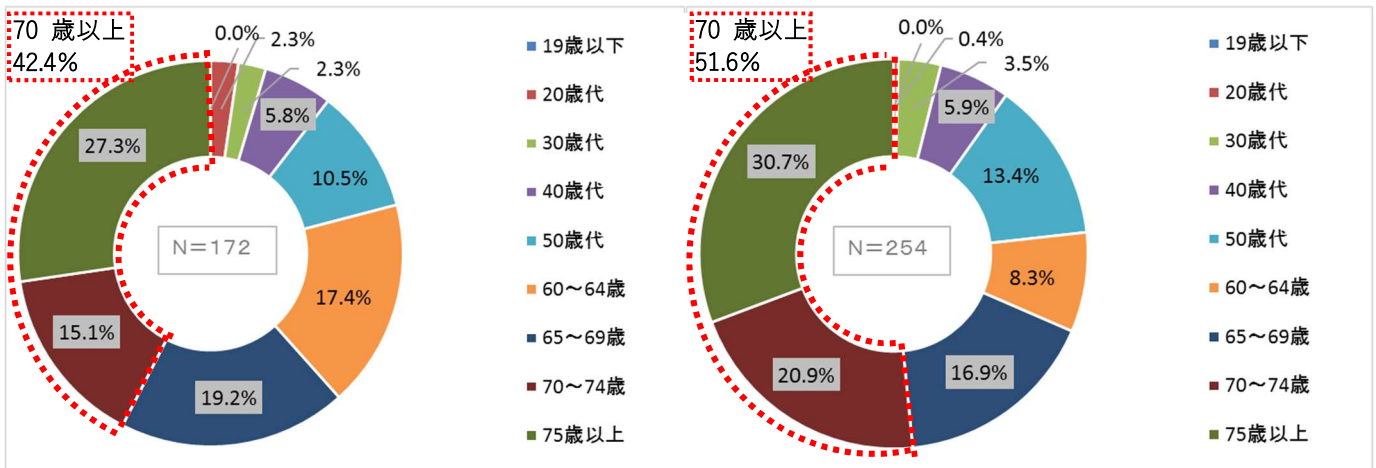
(目標指標は「日常的に利用している」と「最近になって利用し始めた」の合計)

指標5.0ポイント増、今後利用したい10.0ポイント増、どのように運行しているかわからない10.5ポイント減。



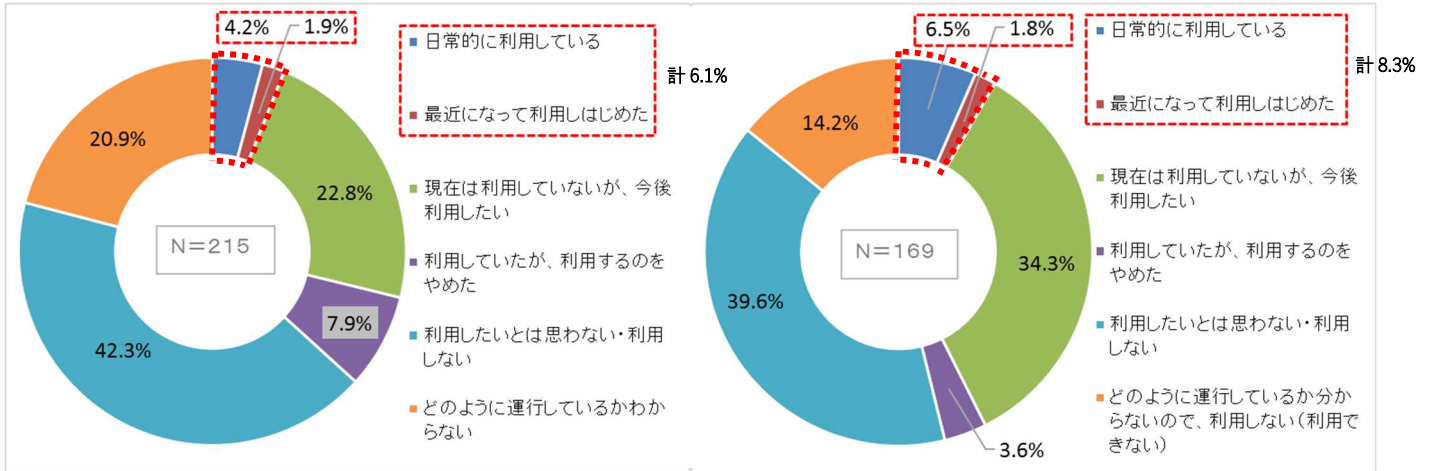
上記のうち、「現在は利用していないが、今後利用したい」と回答した方の年齢別構成

70歳以上が9.2ポイント増



公共交通利用率（旧町）

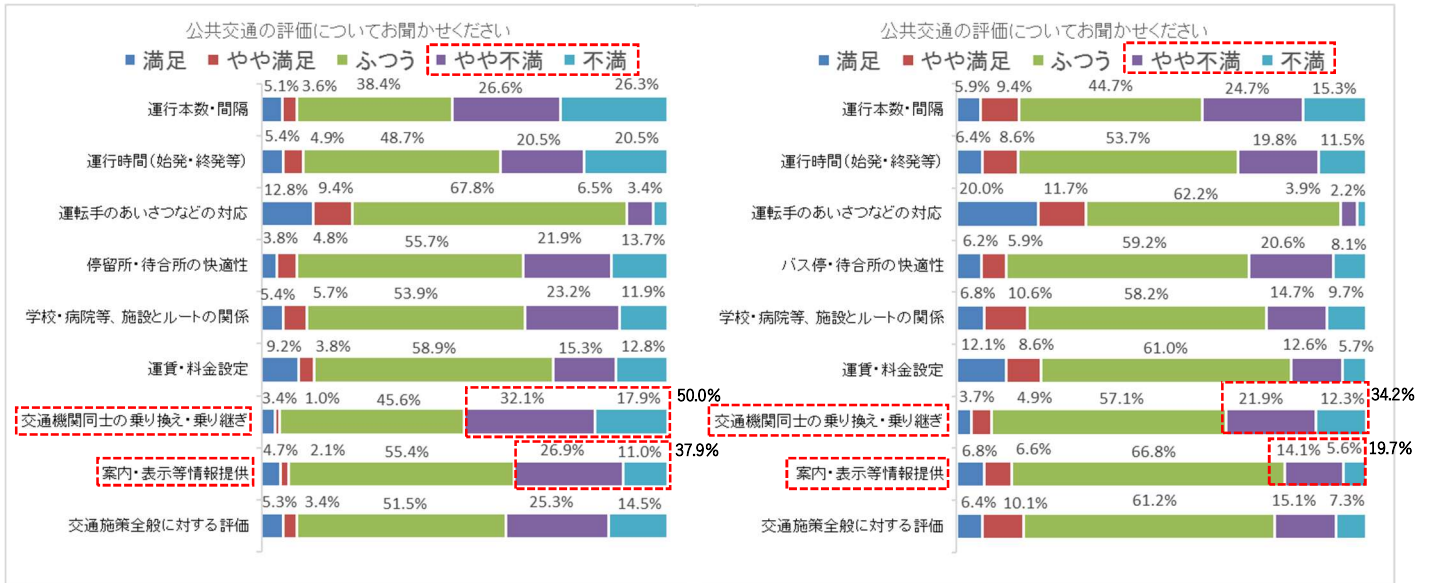
指標 2.2 ポイント増、今後利用したい 11.5 ポイント増、どのように運行しているかわからない 6.7 ポイント減。



公共交通の評価

（目標指標は「やや不満」と「不満」の合計）

全体的に「ふつう」との回答が増えている。目立った点は「運転手のあいさつなどの対応」の項目で、満足が7.2ポイント増。「交通機関同士の乗り換え・乗り継ぎ」の指標も15.8ポイント改善、「案内・表示等情報提供」の指標も18.2ポイント改善されている。

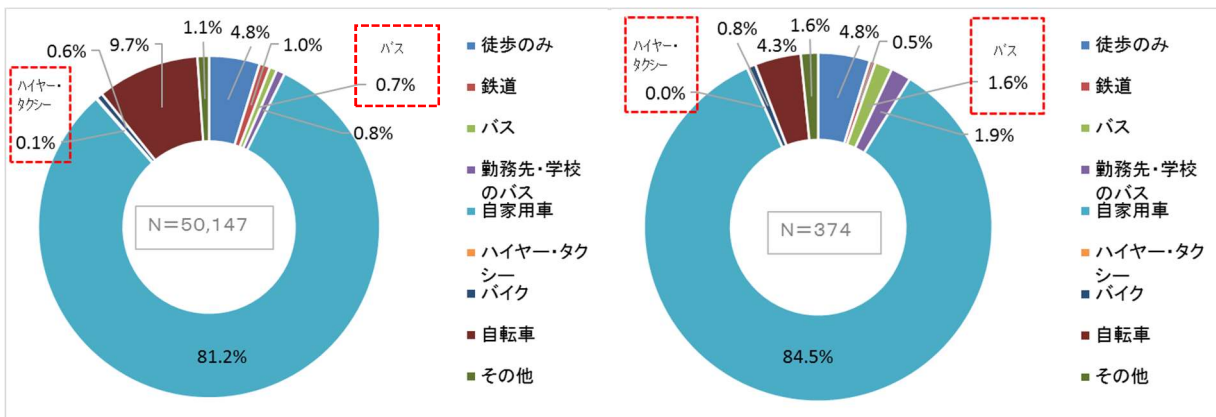


通学・通勤時の公共交通利用率

（目標指標は「乗合バス」と「ハイヤー・タクシー」の利用率合計）

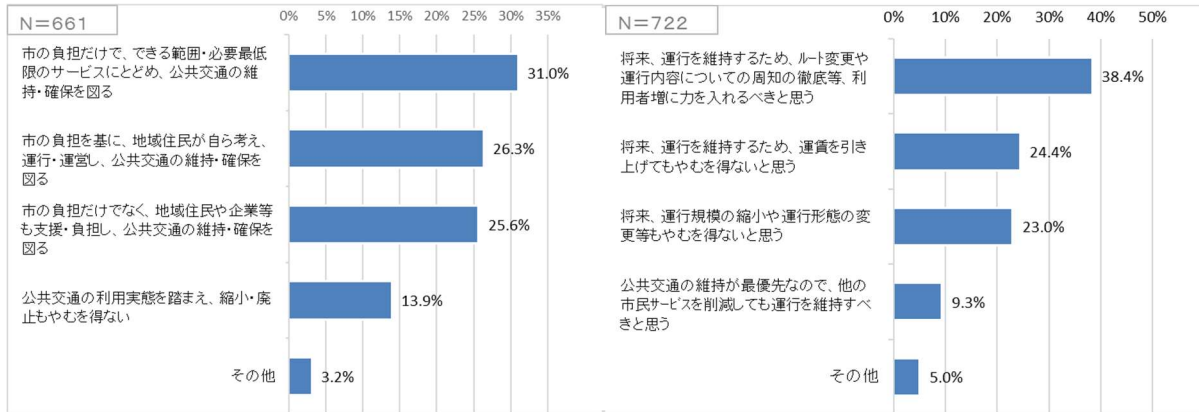
（平成22年度 国勢調査）

（令和2年度 公共交通アンケート）



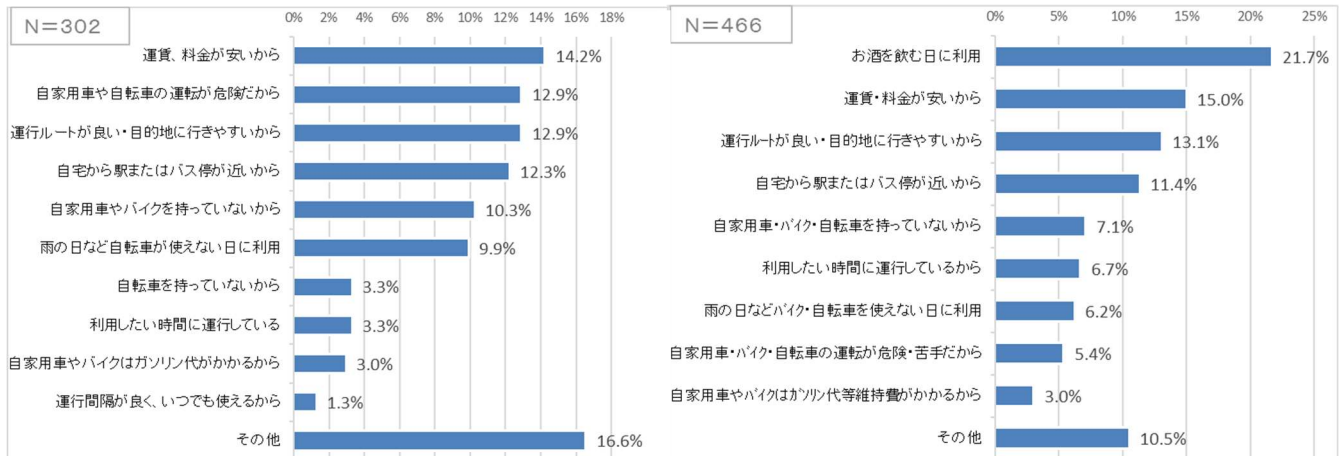
公共交通を引き続き運行するうえで、あなたの考えに近いもの

1番多いのは「ルートの変更や運行内容についての周知の徹底等、利用者増に力を入れるべきと思う」が38.4%。

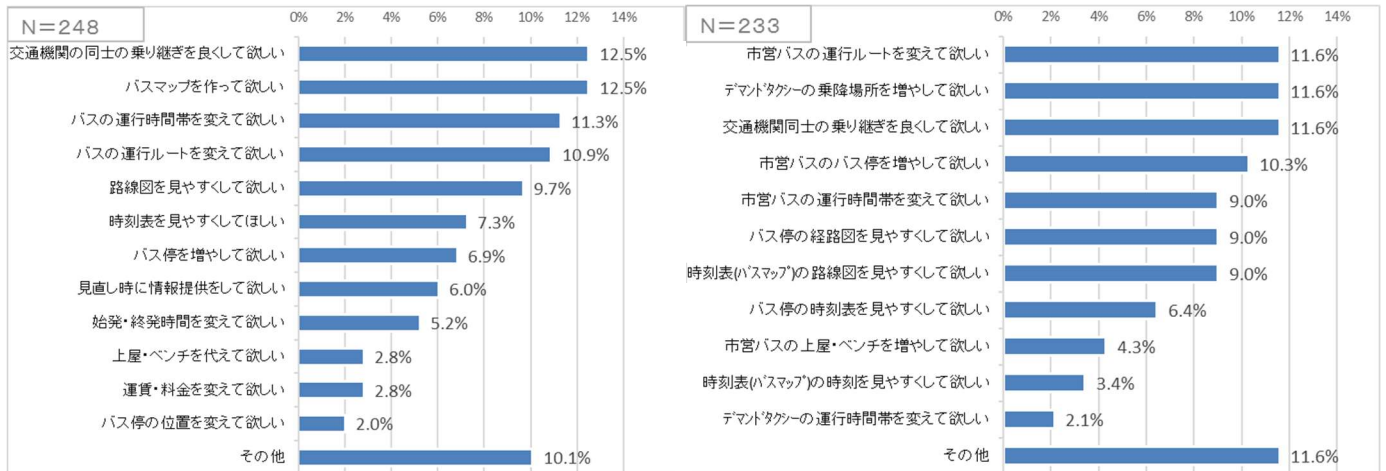


公共交通を利用する際の主な理由

1番多いのは「お酒を飲む日に利用」が21.7%。

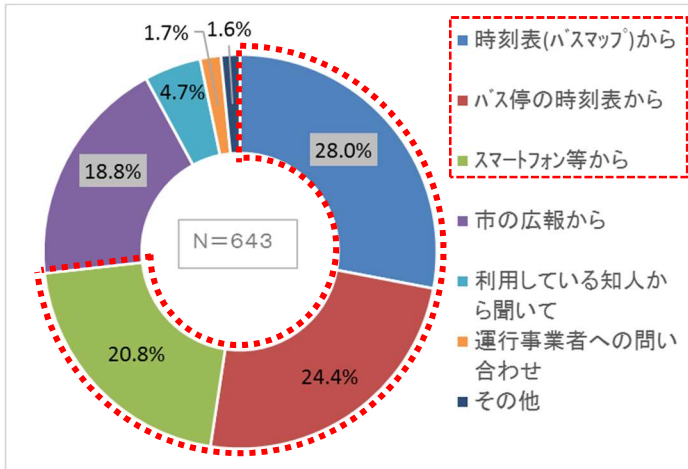


公共交通に対して見直して欲しいこと



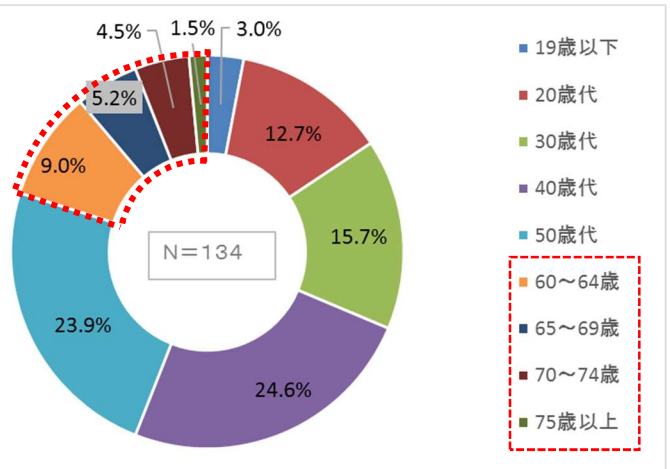
市営の公共交通に関する情報の入手先

時刻表、バス停の時刻表、スマートフォン等から
入手の3つで73.2%



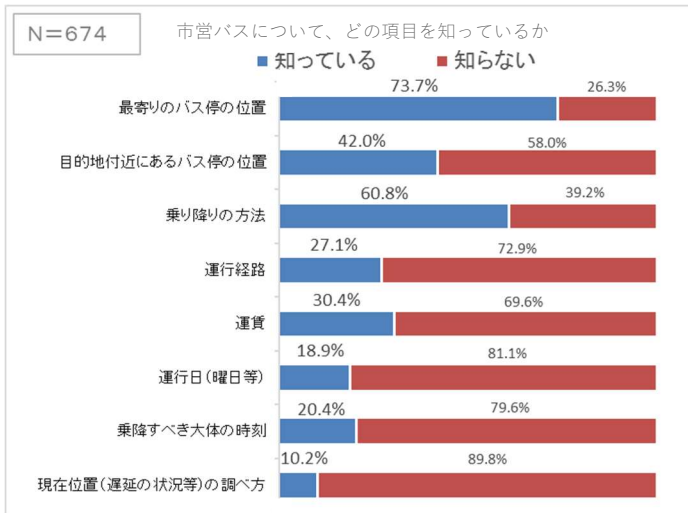
スマートフォン等から入手と回答した年齢

60歳以上が20.2%



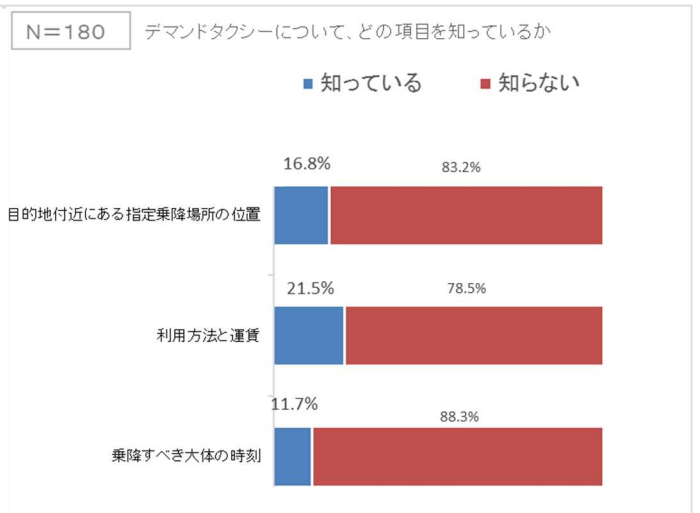
市営バスについて知っている項目

全部の回答



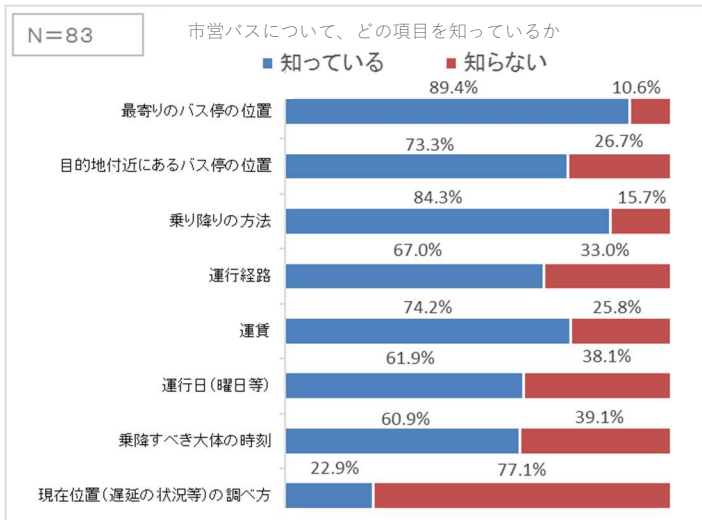
デマンドタクシーについて知っている項目

導入地区居住者の回答 約80%が知らないと回答



市営バスについて知っている項目

公共交通を「日常的に利用している」「最近になって利用しはじめた」と回答した方の回答



酒田市における 公共交通の改編 について



【もくじ】

- 1 これまでの主な経過
- 2 改編の必要性 ①②③
- 3 改編に関する動向
- 4 るんるんバス路線の変更 ①②③④
- 5 デマンドタクシー運行エリアの追加
- 6 まとめとして

令和2年9月 酒田市 都市デザイン課 地域公共交通係

1 これまでの主な経過

H10年（1998年）10月： るんるんバスの運行開始（市街地2路線、郊外2路線の計4路線）

H11年（1999年）7月： ぐるっとバスの運行開始（一條線、観音寺線の計2路線）

H22年（2010年）7月： デマンドタクシーの運行開始（新堀地区、広野地区）

H30年（2018年）4月： 平田ワンコインバスの運行開始（海ヶ沢線、小林線の計2路線）

H28年（2016年）7月： 「地域公共交通網形成計画」の策定〈H28～H32〉

H29年（2017年）3月： 「地域公共交通再編計画の方向性について」の策定〈H29～H32〉

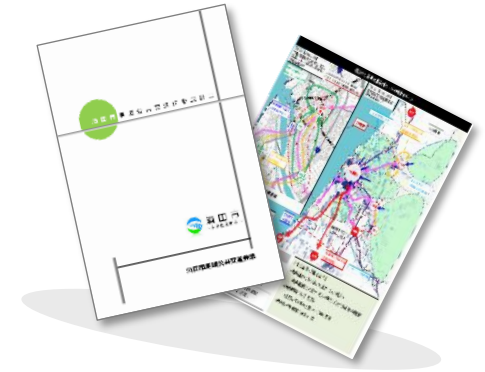
- 概要**
- ・ るんるんバスでは、利用者が多い主要施設（拠点）をコンパクトに効率よく接続し、乗継ぎを前提とした路線を計画
 - ・ 支所地域では、利用状況が低密度な路線バスを見直し、予約型の交通サービスに変更して効率化を図る

H30年（2018年）8月： バス再編路線アンケートの実施

- 結果**
- ・ るんるんバスは、路程が長くても乗り換えのない現行スタイルを希望する回答が多い

H31年（2019年）1月： 地域公共交通会議において、策定した「再編計画の方向性について」の見直しを報告

- 理由**
- ・ 市財政状況の悪化、運転手の不足、交通事業における労働環境規制の強化といった社会環境の変化
 - ・ 再編に必要な便数、運行時間、車両の確保が困難
 - ・ アンケート結果でも、再編路線案が受け入れられていない



2 改編の必要性 ① それぞれの立場から

【利用者の立場から】

- 全体的に バス経路の重複、運賃の違い もあり、運行体系が わかりにくい
- バス停まで歩くこと、バス停で待つことが大変で デマンド化を望む声 がある

【市の立場から】

- 運転手の人件費増加などにより、市からの 運行委託料が増加 している
- 利用者数が大きく減少している路線があり、市負担額が高止まり している
- バス路線の重複、運行経路のわかりにくさが 効率性や乗車密度の低下 に繋がっている
- 市全体として、運転手の担い手不足 が懸念される
- 酒田駅前再開発の完成にあわせ、駅前へのアクセス性を高める必要 がある

市の厳しい財政状況

運転手の担い手不足

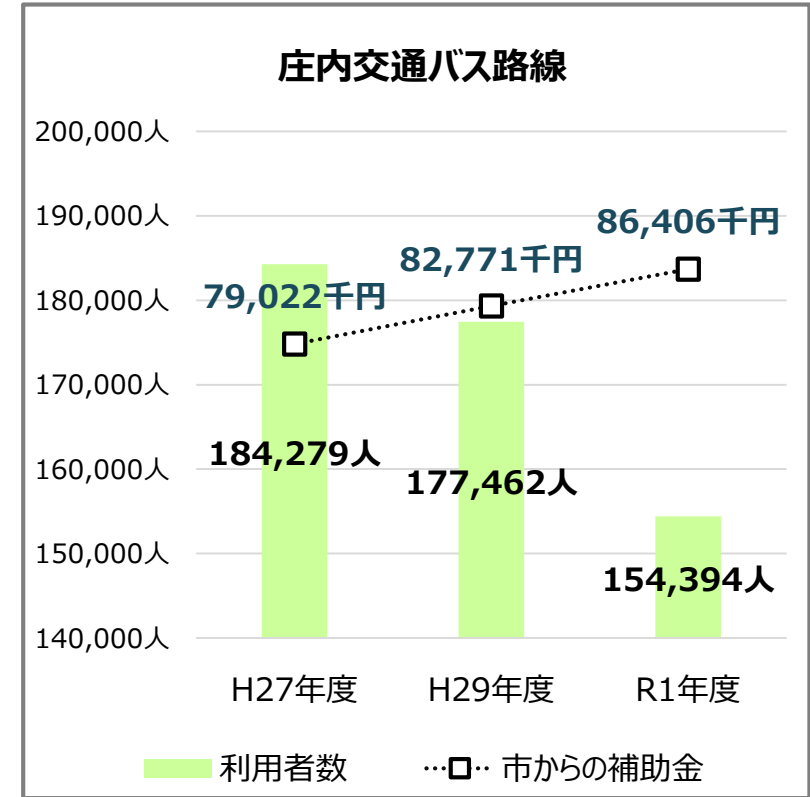
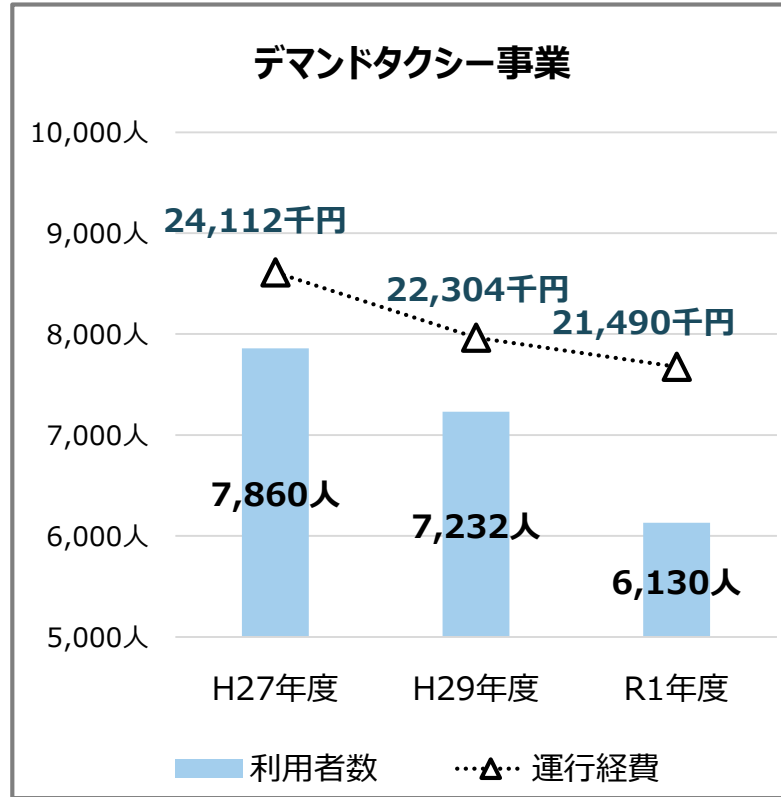
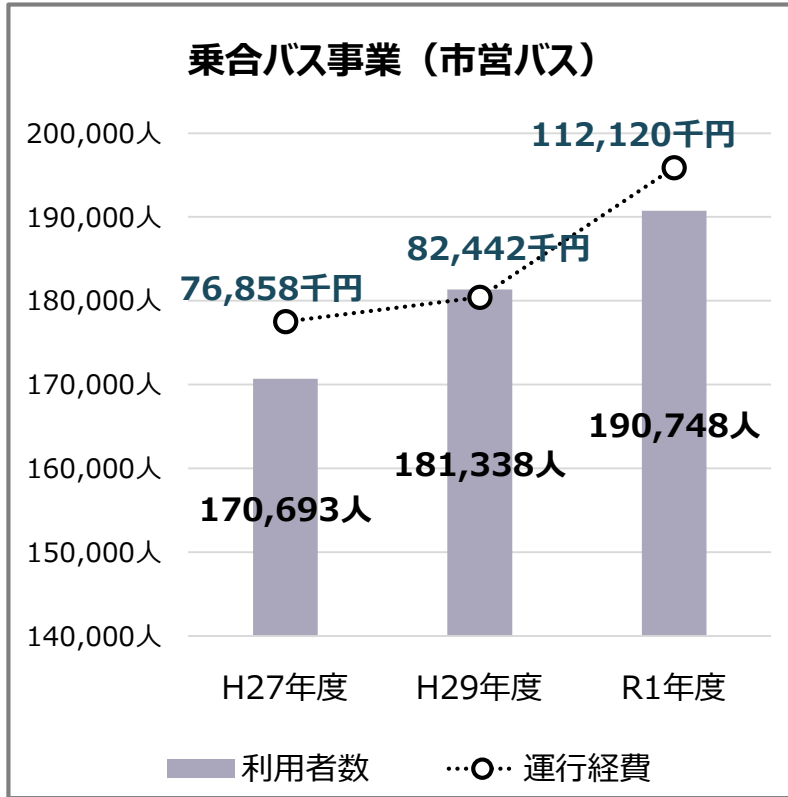
運行体系の効率化

わかりやすさ向上

酒田駅前の利便性向上

2 改編の必要性 ② 利用者数と運行経費

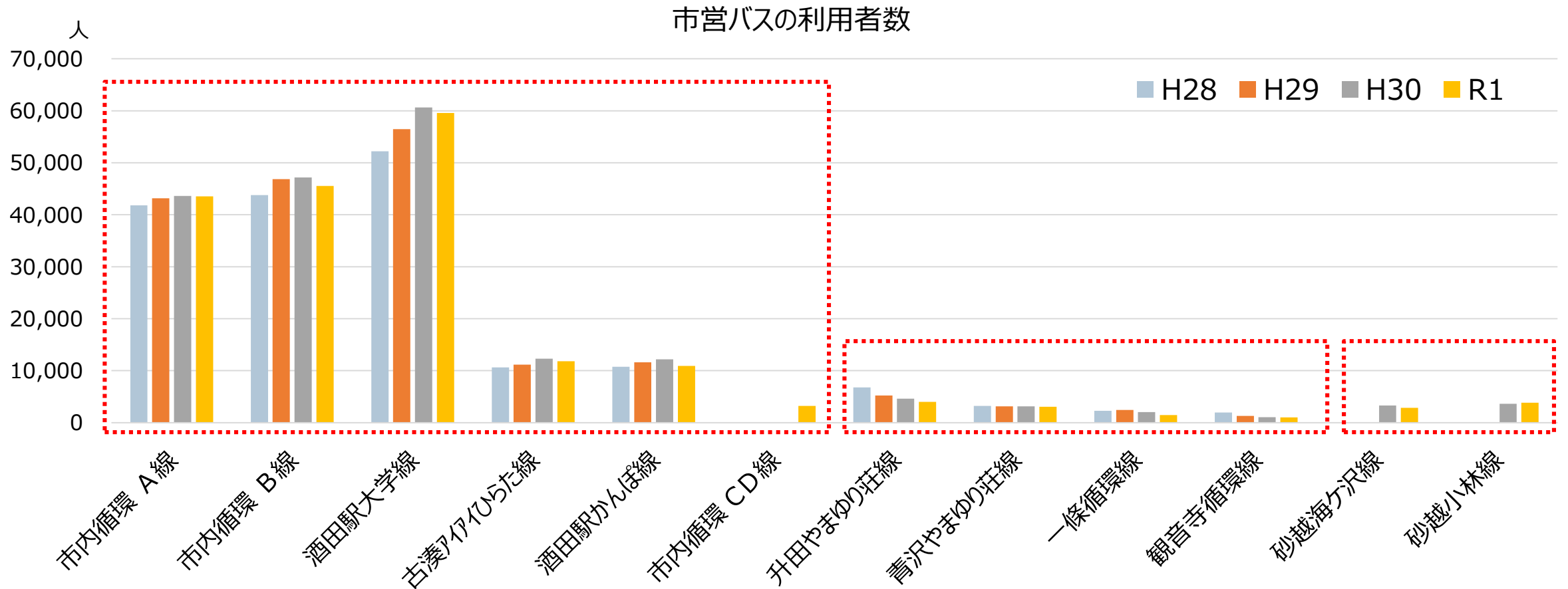
※「運行経費」は、運賃収入を差し引かない金額です



- 市営バスでは、利用者数、運行経費ともに増加傾向にある
(ただし、新規に運行開始している路線の分も含まれる)
- デマンドタクシーでは、利用者数、運行経費ともに減少傾向にある

- 庄内交通バス路線については、利用者数が減少する一方で、路線維持のための市補助金額が高止まりしている
(運行路線が減少していることも影響している)

2 改編の必要性 ③ 市営バスの利用者数(路線別)



るんるんバスは全体的に増加傾向にあったが、R1年度は減少

ぐるっとバスや平田るんるんバスでは、減少が続いている

3 改編に関する動向

令和 4年（2022年）の実施に向けて意見交換中



【ポイント】

① るるるんバス路線の全面的な変更

- ・ わかりやすく効率的な路線体系に変える
- ・ 酒田駅前、中町周辺、日本海総合病院の3拠点は必ず経由する路線とする

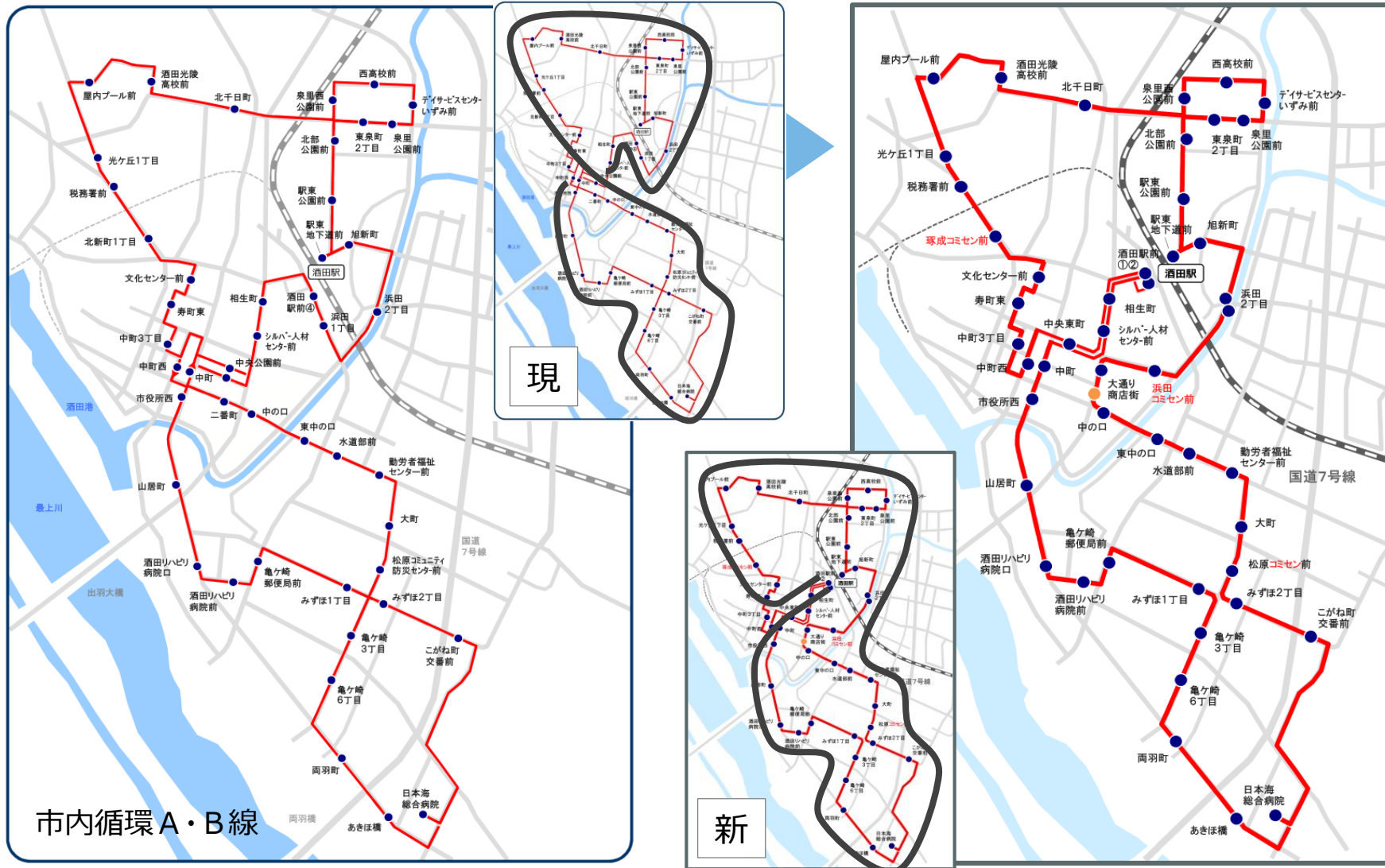
② デマンドタクシー運行エリアの追加

- ・ 浜中、黒森、十坂地区をデマンドタクシー運行エリアとして新たに追加

③ 庄内交通バスの一部路線の廃止

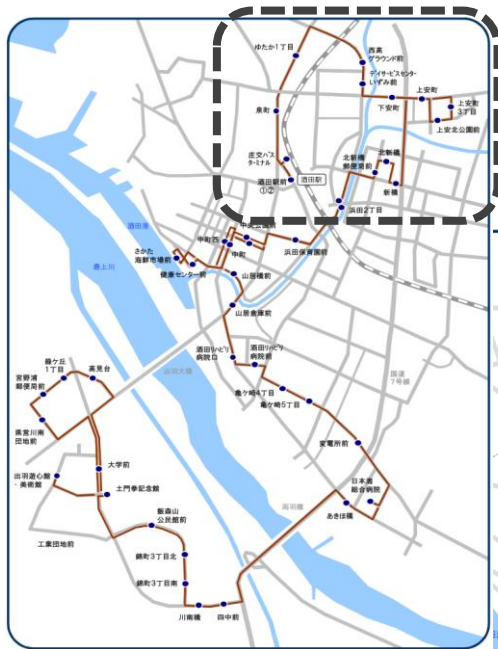
- ・ 余目線、湯野浜線、十里塚線は、るるるんバスやデマンドタクシーの利用が可能となるため、廃止

4 るんるんバス路線の変更 ① 新 市内循環 A・B線



- 利用者が多い現行路線を踏襲
- 始終点を酒田駅前にすることで **駅前施設への利便性を向上**
- 路線の**わかりやすさ向上**のため、駅前を出発して北側先回り、逆回り路線では南側先回りに設定し、**行き先が交錯しない工夫**
- 現行路線に比べ、中町周辺との往來に時間がかかるエリアがある一方で、**酒田駅前、日本海病院との行き来が便利になるエリアが増える**

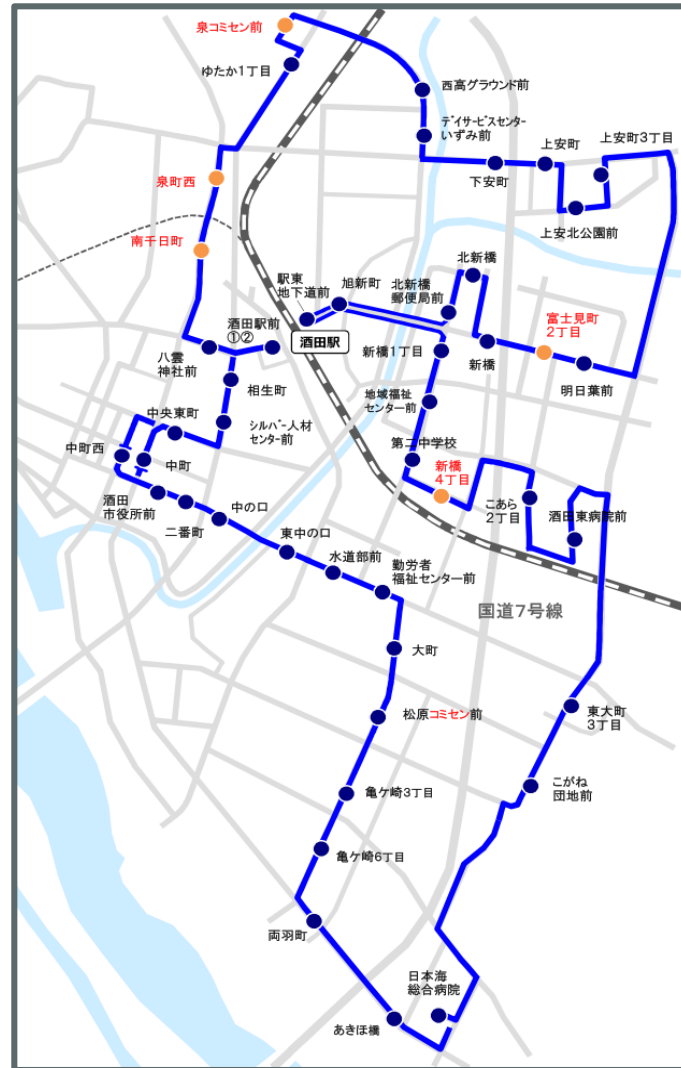
4 るんるんバス路線の変更 ② 新市内循環 C・D線



▲ 酒田駅飯森山線

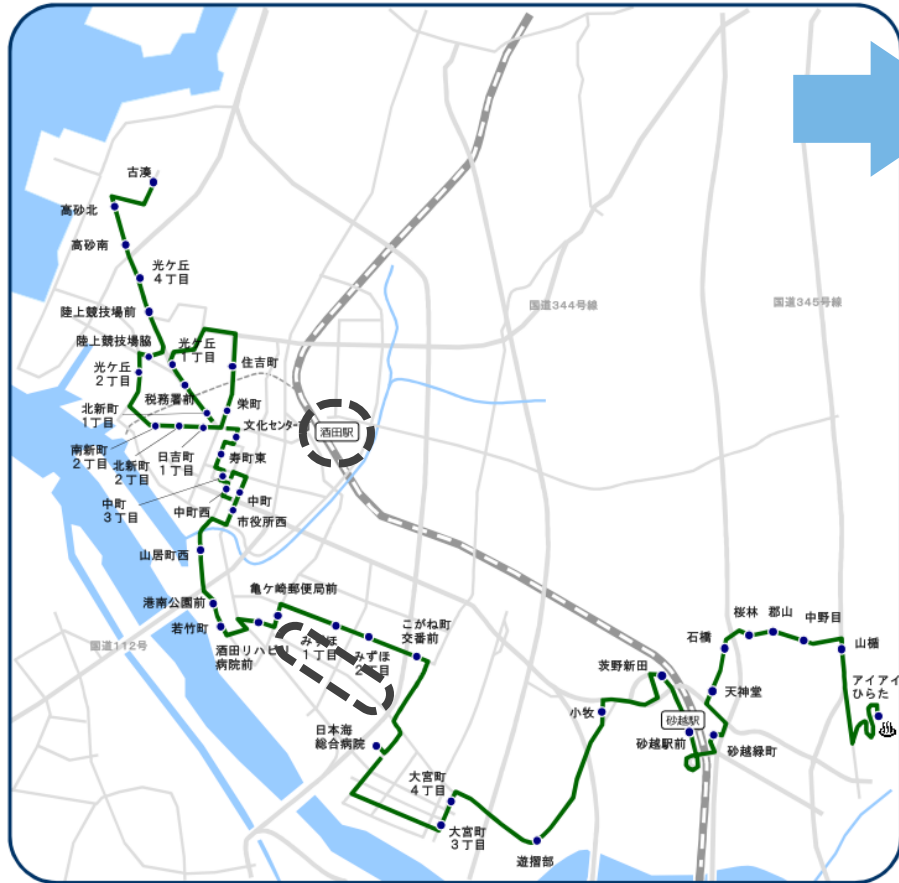


市内循環 C・D線 ▶

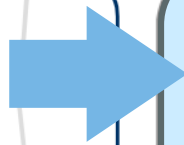


- 現行のC線・D線に、飯森山線の一部を統合した新しい循環線
- 第二中学校付近にある踏切を渡らないことで、**使用できるバス車両に制約がない**
(大型車両が通行できない踏切のため現在はマイクロバスで運行)
- 市民要望に応え、新たに**南千日町エリアも経路に加え、泉コミセンにも**經由
- 意見交換で出された声に基づき、**新たなバス停の設置を検討**

4 るんるんバス路線の変更 ③ 新 古湊アイアイひらた線

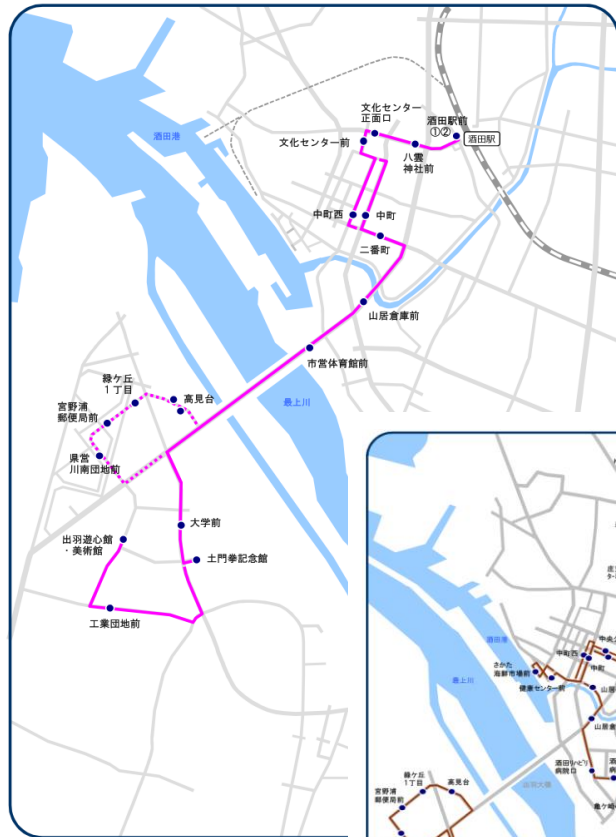


▲ 古湊アイアイひらた線



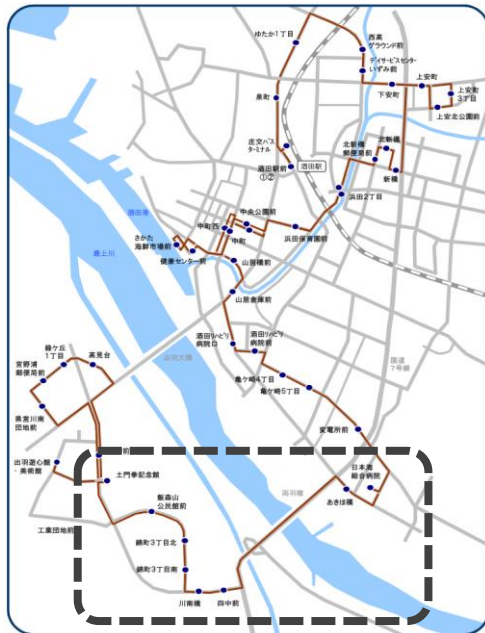
- 基本的な経路は現行路線を踏襲
- **酒田駅前や亀ヶ崎4・5丁目方面を經由**することとし、他のバス路線との兼ね合いや**空白地域を調整**
- これまで同様、温浴施設を有する「**アイアイひらた**」**まで運行**し、バス利用者のニーズに対応

4 るんるんバス路線の変更 ④ 新 酒田駅川南線



▲ 酒田駅大学線

酒田駅飯森山線 ▶



- 現行の大学線に、飯森山線の一部と、庄内交通バス路線の一部を取り入れた路線
- **宮野浦や若宮町エリア、錦町4・5丁目を経由**しながら、酒田駅前方面と日本海病院を結ぶ
- 沿線にある住宅街、学校、観光施設、工業団地などの**利用者ニーズに効果的に対応する視点**が必要
- 利用者が込み合う **17時台の混雑緩和の工夫**が求められる
- 庄内交通バス路線の廃止と一体的に検討

5 デマンドタクシー運行エリアの追加 浜中・黒森・十坂地区

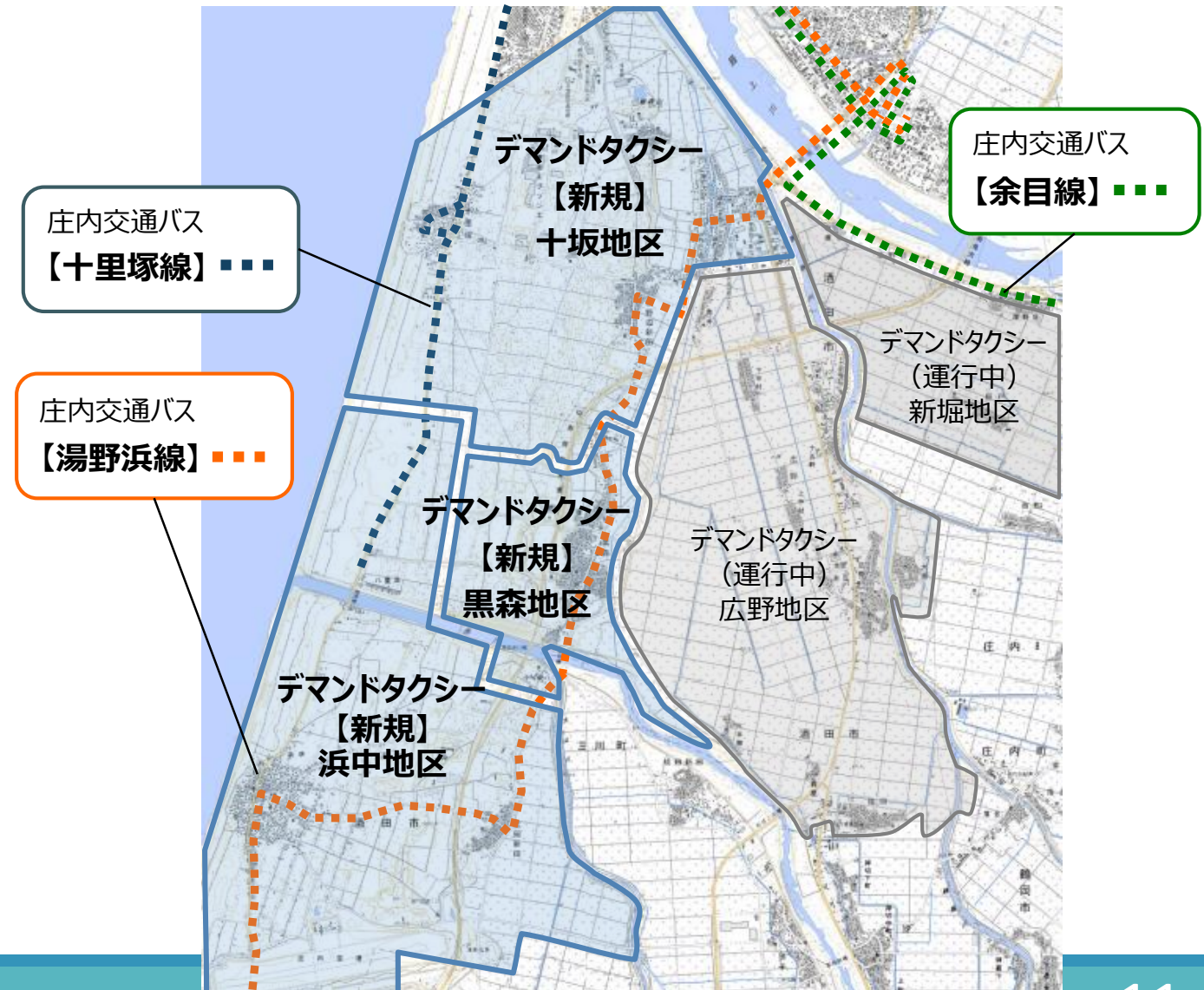
デマンドタクシー 【新規追加】



浜中・黒森・十坂地区

- ・ 地域からの要望もあり、デマンドタクシー運行エリアへの新規追加を検討
- ・ 利用の際は予約が必要になるが、特に高齢者にとって自宅で乗り降りすることができる点は大きなメリット
- ・ 運行日の拡充、運行ダイヤの変更、指定乗降場所の追加も検討し、通勤や通学でも利用できるよう工夫

※ 庄内交通バス路線の 余目線、湯野浜線、十里塚線は新しいるんるんバス路線やデマンドタクシーの運行エリアと重複することになるため、廃止する方向で検討



6 まとめとして

- 今回の改編は、**市の厳しい財政状況**、今後の**運転手の担い手不足**、交通体系の**わかりやすさ向上と効率化**、**酒田駅前へのアクセス向上**などの課題に対して取り組んでいるものです。
- 本資料は、これまで自治会の方々や有識者、交通事業者、福祉関係者などの**皆さんと意見交換**を重ね**現時点での案**として市が作成したものであり、決定したものではありません。
(現在、バス利用者アンケートを実施中)
- 高齢者をはじめとした交通弱者の生活の足として、よりわかりやすく、より利便性が高い公共交通となるよう**今後も検討**を重ねていきます。
- **皆さんのご理解とご協力が必要**ですので、よろしくお願いいたします。

ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願いいたします

(参考) 一般タクシーとデマンドタクシーの比較

項目	一般のタクシー	デマンドタクシー
基本運賃	<ul style="list-style-type: none"> 距離制 [※協会加盟社] 初乗運賃 : 680円 (1.5kmまで) 加算運賃 : これ以降 280mごとに90円 	<ul style="list-style-type: none"> 酒田市街地 ⇔ 自宅 : 片道 500円 松山管内線 ⇔ 自宅 : 片道 300円
乗降場所	<ul style="list-style-type: none"> 自由な場所 ⇔ 自由な場所 	<ul style="list-style-type: none"> 指定乗降場所 ⇔ 運行区域内的の自宅 <p>[酒田市街地の指定乗降場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本海病院、②酒田リハビリ病院、③中町、④酒田駅、⑤文化センター ⑥東中の口、⑦亀ヶ崎小学校前、⑧亀ヶ崎6丁目、⑨東泉町2丁目 ⑩ゆたか1丁目、⑪旭新町
登録	<ul style="list-style-type: none"> 不要 (住所地がどこであっても利用可能) 	<ul style="list-style-type: none"> 必要 (運行区域内的の住所地を事前に登録する)
利用方法	<ul style="list-style-type: none"> 手を挙げて乗れる 電話で予約しても乗れる 	<ul style="list-style-type: none"> 電話で予約が必要 (2時間前まで) 直前キャンセルの場合は、キャンセル料が必要 (運賃と同額)
乗合い	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> あり (運行区域内で予約が複数ある場合)
運行日時	<ul style="list-style-type: none"> 毎日利用でき、運行ダイヤ (便数) はない 	<ul style="list-style-type: none"> 平日 (見込み) の運行で、運行ダイヤ (便数) の設定がある